

シリーズ 学校最前線

大阪府立東百舌鳥高等学校 「総合的な学習の時間」研究指定校一年目の成果

大阪府立東百舌鳥高等学校校長 石田利生



はじめに

平成三十年四月、大阪府立東百舌鳥高等学校は、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業において「総合的な学習の時間」の研究指定校に選ばれ、「学びに向かう探究学習の研究・開発及び評価」という研究主題で、二年間の研究を行うことになりました。ここでは、研究指定校事業一年目の取組みと課題についてまとめました。

本校では、友だちを支えるために必要なスキルを身につける「ピア・サポート研修」に取組み、互いに励ましながら成長できる生徒の育成をめざしてきました。また、ICTをツールとした「授業改善」に取組み、「授業のめ

研究主題設定の理由

自身を見つめ直し、自分の興味・関心について改めて考え、深めていくため、「私のオススメ」をテーマとしたプレゼンテーションを行う単元を設定しました。「情報の科学」プレゼン大会・「高校講座」・「十一月の探究学習」プレゼン大会」と、生徒の探究の質が上がっていきました。

あて、生徒の活動場面、ふりかえり」を取入れた授業「東百舌鳥Style」を推進するとともに、「建設的相互作用を通して、生徒一人ひとりが自分の考えを深める」協同学習の取組みも進めています。レイ・カーツワイル、キャシー・デビッドソン、マイケル・オズボーン、そして、ユヴァル・ノア・ハラリ氏たちが、予測する社会は、グローバル化が進展し、社会や生活が、大きく変わっていく「超スマート社会」です。そこでは、高校・大学を卒業してから仕事へのトランジションが従来のように機能しなくなる現実が待ち構えています。そこで、高校での学びを今一度捉えなおそうと、私たちは「学びに向かう探究学習」の推進を考えました。

一年目の主な取組み

取組項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①「ピア・マインドセットの醸成」の実施							●					●
②「SDGsに基づく関心領域の発見」の実施								●	●			●
③教科連携プログラム ①情報の科学「プレゼン大会」 ②現代社会・情報の科学「関連領域の学習とグループ発表準備」							●	●				
④形成的評価「東百舌鳥Style マインドセットアンケート」										●	●	●
⑤主体性評価 教員研修「理論編」「実践編」											●	●

表の①から⑤の項目で「学びに向かう探究学習」に取組みました。対象学年は一年生です。
①「ピア・マインドセットの醸成」では、クラブ活動に参加しよう・ピアホームルーム・自転車通学マナーを考える・身近な問題を考え直す！デートDV予防、をテーマにマインドマップを書いたり、ロールプレイを行ったりする等の活動を通して意見を出し合い、発表し、ルーブリックで相互評価しました。
②「SDGsに基づいた関心領域の発見」では、現役外交官による外務省「高校講座」で、「異文化と生きる」ために、多様性を「①知ること②尊重すること③決めつけないこと」に気付くことで、生徒の意識を世界に広げ、自分の「常識」を疑い、考えの「多様性」に気付かせる学びが深まりました。
十一月の探究学習「オリンピックの時、海外からのお客さんが困りそうなことを解決しよう」では、設定したテーマに関連する様々な問題のなかから、グループで解決するために取組むものを選び、「問題提起・問



探究学習 代表生徒プレゼン

題展開・解決提案・まとめ」の役割分担で探究を進め、「自分たちにできそうなポイント・問題解決の糸口」についての提案・提言につなげていきました。評価は、「ルーブリック」で相互評価しました。一月には大阪府立大学の留学生を招き、日本での生活に困ったこと、その解決策等について交流を深め、二月には、二年次の探究学習に向けてSDGsへの理解を深めるグループワークを行いました。

自身を見つめ直し、自分の興味・関心について改めて考え、深めていくため、「私のオススメ」をテーマとしたプレゼンテーションを行う単元を設定しました。「情報の科学」プレゼン大会・「高校講座」・「十一月の探究学習」プレゼン大会」と、生徒の探究の質が上がっていきました。④形成的評価「東百舌鳥Style マインドセットアンケート」では、「ピア・マインドセット」「グローバル・マインドセット」「グロース・マインドセット」の三観点で、「生徒の変容」を測りました。十一月の探究学習の前後で、「自分はこのために役立つことができる人間だと思う」の肯定的評価が一〇ポイント上がりました（有意水準5%で両側検定（対応のあるt検定）で有意）。ここから「学びに向かう探究学習」に取組む過程で、協働して「探究学習」に取組むことで、「自己有用感」「主体性」が高まるという新たな仮説が設定できたので

⑤主体性評価・教員研修「理論編」では、高大接続改革で主



主体性評価・教員研修「実践編」

体性を評価することの背景とその意義、ポートフォリオなどを活用した「学びを促すための」主体性評価について理論を学び、理解を深めました。「実践編」では、各教科でポートフォリオを活用して主体性・主体的な学びを評価するためのイメージを持ち、各教科でめざす学校・生徒像を見据えながら、主体性・主体的な学びの評価についての議論を深めました。

理由や根拠を示し「自分たちにできそうなポイント・問題解決の糸口」についての提案・提言につなげました。教科連携プログラムではカリキュラム・マネジメントを確立させながら取組みを進めることができました。来年度の探究学習では、専門コースと関連させて、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することをめざすとともに、「ピア・マインドセット」や「学びに向かう力」などの評価規準を作り、これらの力がどの程度身についたかについて評価を行うとともに、評価規準の妥当性についても検討し、「総合的な学習（探究）の時間」の評価方法の確立をめざしていきたいと考えています。

【プロフィール】石田利生（いしだとしお）昭和三十七年生まれ。昭和六十一年神戸大学教育学部中等社会科卒業。大阪府立城山高等学校・東淀川高等学校教諭・首席を経て、大阪府立山本高等学校・豊中高等学校教頭、平成二十九年から現職。